

第6章 東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 500 ～ 1,000 m 程下った右岸に位置している。標高 17 ～ 20 m で現谷底との比高差は 3 ～ 4 m を測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東大久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川の間には平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約 50 m に江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。本遺跡の調査は 1976 年以來 2013 年 12 月現在、70 地点で試掘調査および発掘調査を行っている。これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑など、中近世は溝や柵跡が確認されている。

II 東久保遺跡第 69 地点

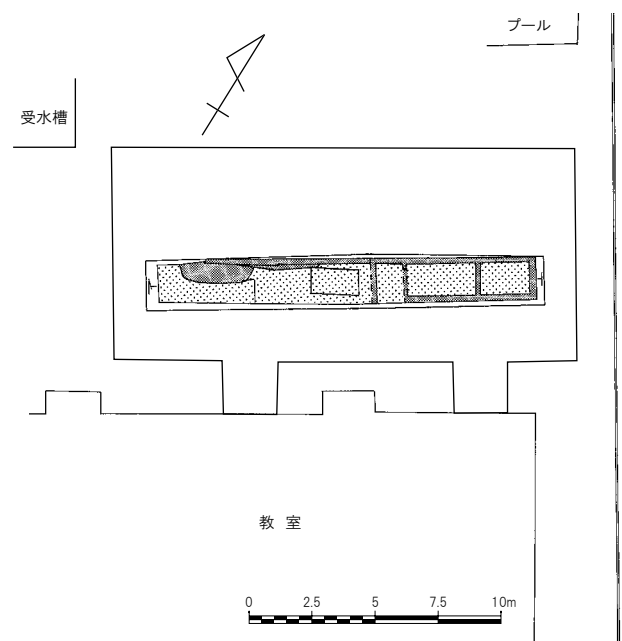
(1) 調査の概要

調査は小学校増築に伴うもので、ふじみ野市長より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010 年 12 月 1 日付け

で市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東部に位置するため、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011 年 3 月 28 日に行った。幅約 2 m のトレンチ 1 ヶ所を設定し、重機で表土除去後に表面精査を行ったが遺構遺物は確認されなかった。

遺構確認面までの深さは約 150 cm である。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第 38 図 東久保遺跡 第 69 地点調査区域図 (1/300)

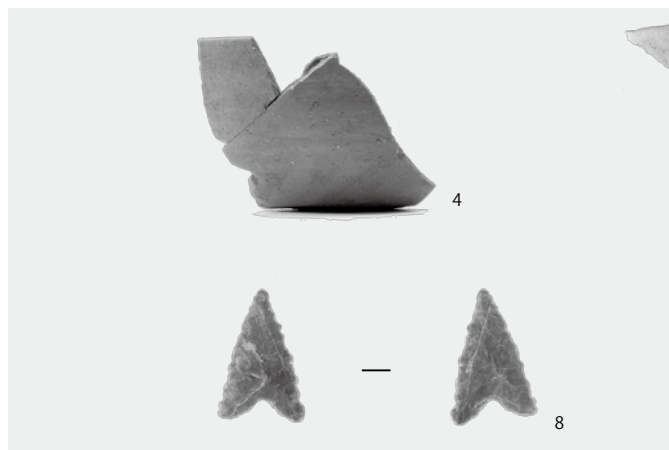
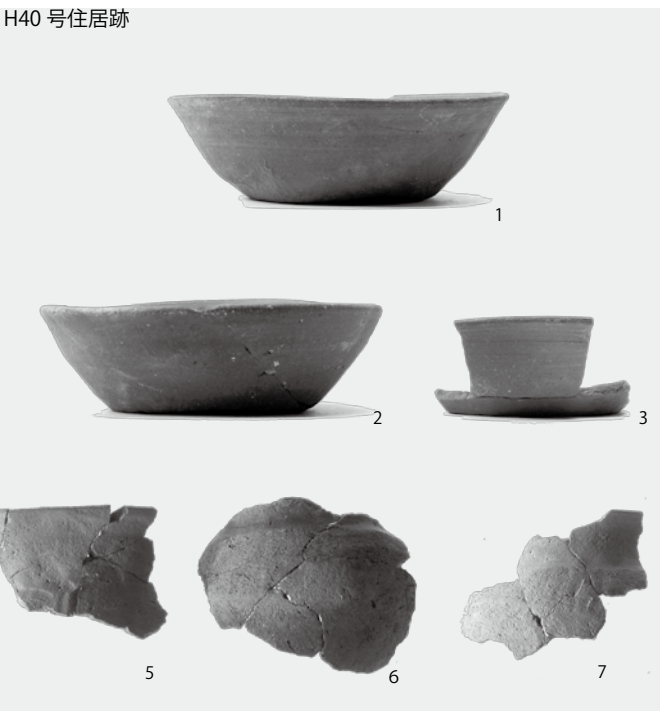


第 37 図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



松山遺跡第 55 地点調査風景

H40 号住居跡



松山遺跡 55 地点出土遺物

土坑 1



東久保遺跡第 69 地点



駒林遺跡第 11 地点トレンチ 2



駒林遺跡第 11 地点トレンチ 3



駒林遺跡第 12 地点溝 1